



研究テーマ

- 1 日向夏みかんに含まれる骨代謝改善物質
- 2 アンチトロンビンの胎盤組織に対する作用機序解明に関する研究
- 3 ラット虚血性脳障害におけるプロテオグリカンの変化に関する研究



山口 昌俊

やまぐち まさとし
医学部
附属病院

その他

キーワード

日向夏みかん、アラビノガラクトタン、骨粗鬆症、破骨細胞、骨芽細胞、アンチトロンビン、絨毛細胞、プロスタグランジン、虚血性脳障害、ヘパラン硫酸プロテオグリカン

特許情報・
共同研究・
応用分野など

特許
「日向夏みかん由来のアラビノガラクトタン」
特許第6850946号

「カルシウム吸収促進剤」
特許第6872680号

受託研究
「農産物に付加価値をつけた保健用食品および薬物吸収促進剤の開発」
宮崎県戦略的科学研究事業

平成25年度農林水産業・食物産業科学技術研究推進事業

「食農連携による日向夏搾汁残渣を用いた骨代謝改善剤、飲料の実用化開発」

研究概要

- 1) 日向夏みかんに含まれる骨代謝改善物質
- 2) アンチトロンビンの胎盤組織に対する作用機序解明に関する研究
- 3) ラット虚血性脳障害におけるプロテオグリカンの変化に関する研究

1 日向夏みかんに含まれる骨代謝改善物質

日向夏みかんの水性抽出物に、骨代謝を改善する物質が含まれていることが明らかになり、アラビノガラクトタンであることが判明しました。骨粗鬆症の予防に応用できる可能性がある以外に、日向夏みかんに付加価値をつけることが出来るのではないかと考えています。現在、人での有効性を証明するための研究を行い、論文作成中です。

2 アンチトロンビンの胎盤組織に対する作用機序解明に関する研究

アンチトロンピンは、トロンピン活性を阻害するペプチドですが、それ以外にも種々の生理活性を持っている可能性があります。我々は、ある疾患に対してアンチトロンピンが有効ではないかと考えていますが、その作用機序は不明です。作用機序を解明するために、胎盤組織を使用して検討しています。

3 ラット虚血性脳障害におけるプロテオグリカンの変化に関する研究

神経組織が再生するためには、神経細胞が再生するのみでなく、正しい場所にシナプスを作る必要があります。脳の発生過程では、神経線維が正しい方向に伸長するためには、決まった場所にプロテオグリカンが産生されることが必要だとわかっています。我々は虚血による脳障害後のプロテオグリカンの変化を研究することが、脳障害の治療につながる可能性があるのではないかと考え研究を続けています。

ホームページ

技術相談に応じられる関連分野

メッセージ